

ぼうさい みくまじろ



No.17

H29. 2. 28 発行

みくまの支援学校
育友会 防災研修部

一年間の活動を振り返って 育友会 防災研修部長 垣内 美貴



本校の育友会組織に防災研修部が発足して二年目の本年度、全知P調査研究助成事業に認定いただき、(学校とともに)保護者による「子どもの命を守る取組」を研究主題として活動させていただきました。

まず、現地研修として、大阪市立阿倍野防災センターと震災対策技術展に私も参加させていただきました。この研修では、起震機による地震の体験や応急救護を学びました。また、非常食・防災関連グッズを実際に見ることで、知識を生かし事前に備えることの大切さを知りました。

せっかく得た防災知識や情報を保護者の皆さんにも提供することで、家庭での啓発になればと、防災広報紙「ぼうさい みくまじろ」を発行することに決め、教頭先生にご協力いただき編集作業を行いました。この広報紙が、保護者の皆さんへの情報発信としての役割を果たしてくれました。また、これまで集めてきた資料・カタログなどを整理し、併せて、防災に関する分かりやすい書籍を新たに購入して、保護者の皆さんに利用していただこうと、「防災ライブラリー」を学校の玄関ホールに開設しました。まだ定着はしていませんが、家庭での防災対策推進に役立つものと思っています。

校外での活動として、11月に開催された「新宮市防災フェア」に初めて参加させていただきました。本校の防災に関する取組のパネル展示や、防災キャラクター「みくまじろ」の缶バッジ作り体験を実施しました。地域活動に参加することで、本校の防災の(※へ)

※取組を知っていただくのはもちろんですが、自分たちの地域に支援学校があること、サポートが必要な子どもたちがいることを知っていただくことができました。校内だけの活動にとどまることなく、積極的に活動することで新しい交流が生まれる大切な機会となりました。

1月には育友会主催で「防災講演会」を開催し、保護者以外にも福祉施設や教育関係者の方々にもご参加いただきました。講師の清水宣明教授より、災害弱者の視点から、地震津波から命を守る適切な意識と行動を教えてくださいました。

今後の課題としては、より多くの保護者の方に参加していただけるよう工夫し、継続的に活動できるよう取り組んでいくことです。育友会執行部や防災研修部員はこの活動をとおして、備えの大切さや、被災時の適切な行動などについて強く意識するようになりましたが、それをすべての保護者の皆さんに広げて、家庭・地域の防災力向上に繋がればと願っています。

学校は、地域の防災・避難施設として重要な役割があります。災害に強い学校は、その地域の安心につながります。今後、学校が果たす役割は大きくなりますが、学校と保護者が連携し、一つ一つの課題に取り組みながら、防災力の強化に取り組んでいきたいと思えます。

本年度御協力いただきました育友会員の皆様、ありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

育友会 防災講演会

参加者アンケートから②



1月19日(木)に開催した「防災講演会」では、参加者にアンケート調査(①感想 ②参考になったこと ③現在取り組んでいる防災対策 ④防災対策の課題)をおこないました。

今回は、防災対策の課題について抜粋してお知らせします。

今後、学校・保護者・地域の皆様方等、連携しながら解決に向けて取り組んでいきたいです。

- やはり移動中の不安が大きいです(PTA)
- 地震の時、建物が倒壊しないか、津波からの避難(PTA)
- 備蓄(教育関係者)
- 発電機を用意したいと思っている(教育関係者)
- 遠くに離れている義理の親の安全をどう確保すればよいのか、家族内でも話をして自身をもって暮らせるように考えていかなければと思いました。(教育関係者)
- 前々から家具等が倒れないようにしないとと思いながらまだ実現できていないので、早々に実行しようと思いました。(教育関係者)
- たいした高台もなく、海の近くに住んでいるということです。(教育関係者)
- 家族の災害に対する意識付け(自治体職員)
- 重度障害者の避難(障害者施設職員)
- 身体に合わせた避難を職員とともに見直してみたいです(障害者施設職員)
- 職員一人一人のスキル、いかに冷静に対応できるか、臨機応変に指示等ができるか(福祉施設職員)

みくまの方丈記 ⑮ ～豊かな心～

榎本校長先生による特別寄稿です。



豊かな心とは何か?文部科学省のホームページには、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、とある。では豊かな心を育てるにはどうするのか?このことは、常々自ら思い巡らしているところでもある。以前、「生き抜く力・豊かな心」を涵養していくためには、素直な心と勤労を尊ぶ精神が大切である。素直な心が一番。と書いた。もう一つある。どんな些細なことにでも「ありがとう」と感謝できる心の育成も大切である。

光洋中の綾踊りでは、全員が綾織竹を持って登場する。同時に半数以上の生徒はタオルも持参して登場した。運動場の石英混じりの土が脛に痛いのだ。来年の運動会では裸足に優しい運動場で中学生を迎えよう、と職員には伝えた。児童生徒教職員が共に協力して整えた運動場で観る日本遺産の舞は、より魅力的に映るはずだ。子ども達の豊かな心を育む土となることにも期待したい。私達教員には、目の前の現実を見通す目と教育目標を達成しようとする意識が問われている。